

合理的意志決定能力を育成する社会科学習

名古屋市立栄小学校教諭 清水 亮 佑

I 研究のねらい

店のレジは全てセルフレジにするべきだと思います。店の人は、ほかの仕事に集中して取り組むことができ、客はスムーズに会計を済ませることができます。しかし、もしも、機械の操作が難しいと感じる人や会計をせずに、商品を持ち帰ってしまう人が多くなるならば、セルフレジにするべきでないと思います。

これは、第5学年単元「情報を生かす産業」において「店のレジは全てセルフレジにするべきか、するべきでないか」に対して留保条件を考え、合理的意志決定することができた子どもの記述である。岩田一彦氏（2001）は合理的意志決定について、「社会認識内容を踏まえて、価値判断をすること」とし、「留保条件付きの判断が、合理的意志決定能力を形成する」と述べている。留保条件とは、上述のように「もしも、～ならば、…する」と、どのような場合であれば判断を変えるかという条件のことである。

第4期教育振興基本計画では、社会の創り手となり、多様な人々と協働しながら課題解決を通じて、持続可能な社会を維持・発展させることを求めている。また、小学校学習指導要領解説社会編では「社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力を養う」と明記されており、課題の解決に向けて選択・判断する力が求められている。持続可能な社会を維持・発展させ、公民としての資質・能力の基礎を養う上でも合理的意志決定能力を育成することは意義があると考えられる。

しかし、これまでの実践では、これからの社会がどのように在るべきかを考える際、異なる考えを受け入れることができない子どもがいた。これは、社会的事象の働きや役割である社会的事象の意味を段階的に捉えさせたり、異なる考えに気付くような場を設定したりすることができていなかったことが原因であると考えられる。そこで、私は、社会で行われている取組についての良さを捉え、これからの社会がどのように在るべきか、留保条件を考え、合理的意志決定することができる子どもを育成したいと考えた。

関西福祉大学小野間正巳氏（2018）は、「『批判』『調整・吟味』という学習過程を組み込み、自らの価値判断に基づいて意志決定し『提案』することで市民的資質・能力としての合理的意志決定能力が身に付く」とし、協働提案型社会科授業を提唱している。本実践では小野間氏の協働提案型社会科授業に着目し、合理的意志決定能力を育成していくこととする。

II 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立栄小学校 第5学年 25人

2 基本的な考え

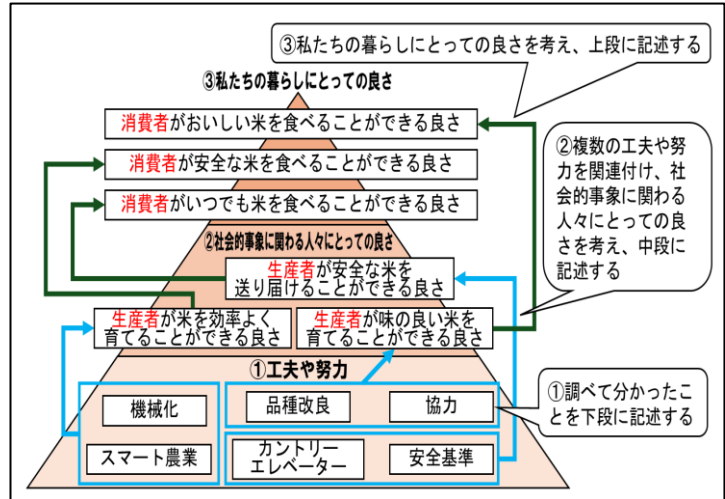
まず、調べた工夫や努力を社会的事象に関わる人々にとっての良さ、私たちの暮らしにとっての良さと段階を踏み、関連付けて考えることで、社会的事象の意味を捉えることができるようにする。次に、これからの社会がどのように在るべきかを社会的事象の意味を踏まえて考える。そして、互いの考えを比較・検討し（批判）、最終的な考えをまとめ、提案する（調整・吟味）。これにより、合理的意志決定能力を育成することができる。そこで、「課題把握」「課題追究」「意志決定」という段階を設定する【資料1】。

段階	主な学習活動
課題把握	○ 社会的事象と出会い、学習問題を設定し、学習計画を立てる。
課題追究	○ 工夫や努力について調べる。 ○ 工夫や努力を結び付け、社会的事象に関わる人々にとっての良さを考える。 ○ 社会的事象に関わる人々にとっての良さと関連付け、私たちの暮らしにとっての良さを考え、社会的事象の意味を捉える。
意志決定	○ これからの社会がどのように在るべきかを社会的事象の意味を踏まえて考え、仮の意志決定をする。 ○ 同じ仮の意志決定をした子ども同士で比較・検討し合う。【批判】 ○ 異なる仮の意志決定をした子ども同士で比較・検討し合う。【批判】 ○ 自分の考えを検討して、最終的な意志決定として考えをまとめ、提案する。【調整・吟味】

【資料1】 基本的な学習の流れ

(1) 「良さ発見シート」の活用

まず、「課題把握」の段階で作成した学習計画を基に、工夫や努力について調べる。調べて分かったことは「良さ発見シート」の下段に記述する。次に複数の工夫や努力を関連付け、社会的事象に関わる人々にとっての良さを考え、中段に記述する。そして、それらを基に、私たちの暮らしにとっての良さを考え、上段に記述する【資料2】。このように、段階を踏んで、工夫や努力を自分たちの暮らしと関連付けて考えることで、社会的事象の意味を捉えることができるようになる。



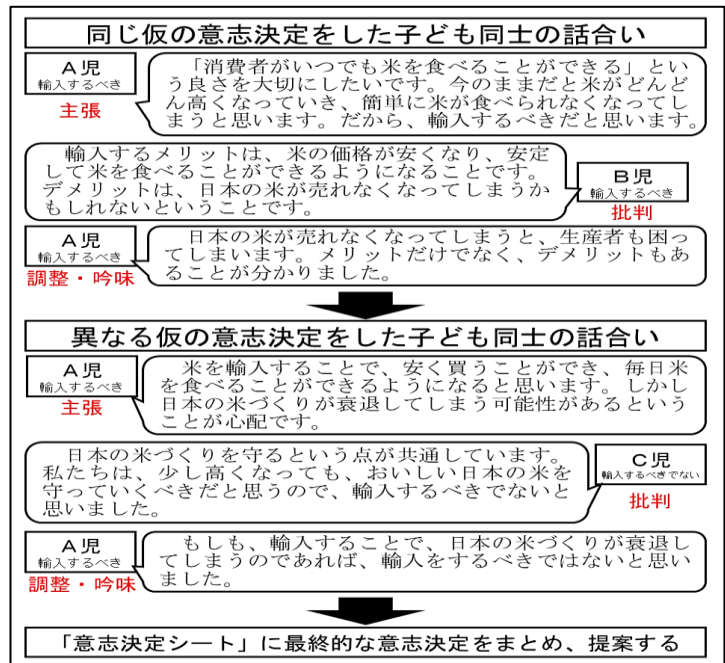
【資料2 「良さ発見シート」】

(2) 「意志決定シート」の活用

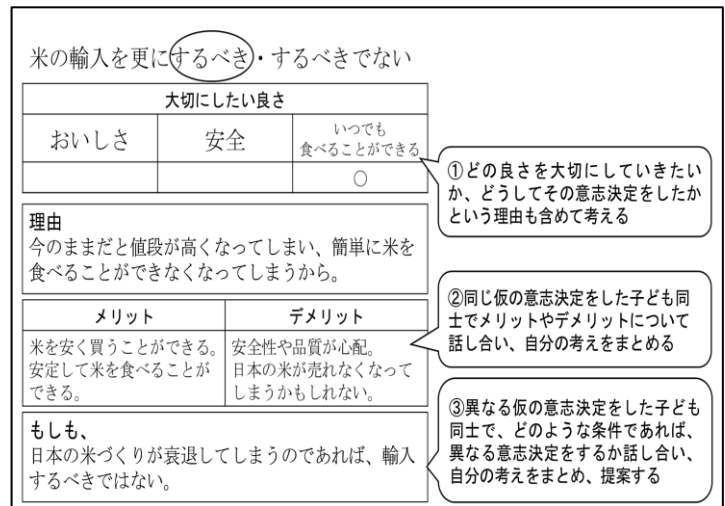
まず、「課題把握」の段階で提示した課題と「課題追究」の段階で見いだした私たちの暮らしにとっての良さを確認する。次に、課題を解決するために、資料を基に、「～すべきか、するべきでないか」という二者択一で仮の意志決定をする。その際、どの良さを大切にしていきたいか、なぜその意志決定をしたのかという理由も含めて考える。そして、「批判」「調整・吟味」を組み込んだ話し合いを行う【資料3】。

話し合いでは、まず、同じ仮の意志決定をした子ども同士で、メリットやデメリットについて話し合い（批判）、「意志決定シート」に自分の考えをまとめる（調整・吟味）。次に、異なる仮の意志決定をした子ども同士で、それぞれの考えのメリットやデメリットを共有したり、どのような条件であれば、異なる意志決定をするかについて話し合ったりする（批判）。そして、話し合いを基に、留保条件を考え、最終的な意志決定をまとめ、提案する（調整・吟味）【資料4】。

このように、「批判」「調整・吟味」を組み込んだ話し合いで、それぞれの考えのメリットやデメリットを明らかにし、これからの社会がどのように在るべきか、自分とは異なる考えと比較することで、留保条件を考え、合理的意志決定することができるようにする。



【資料3 「批判」「調整・吟味」を組み込んだ話し合い】



【資料4 「意志決定シート」】

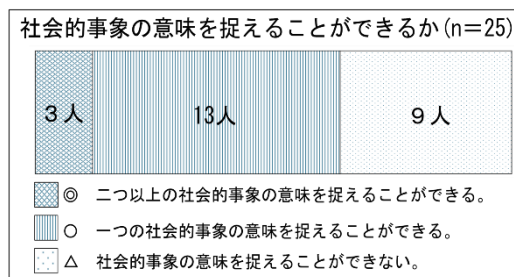
Ⅲ 子どもの実態

- 1 調査日 5月7日～5月23日
- 2 調査方法 プレ実践における記述分析
- 3 調査対象 名古屋市立栄小学校 第5学年 25人
- 4 記述調査の結果と考察

(1) 社会的事象の意味を捉えることができるか（調査1）

単元「あたたかい土地の暮らし」において、「人々の工夫や努力によって、どのような良さがあるか」についての記述内容を分析した【資料5】。

「防風林や石垣によって、台風から家を守る良さがある」「さとうきびの栽培やリゾート開発によって、気候を生かす良さがある」等の社会的事象の意味を二つ以上捉えることができた子どもが25人中3人いた。また、社会的事象の意味を一つ捉えることができた子どもが13人いた。一方で、社会的事象の意味を捉えることができなかった子どもが9人いた。



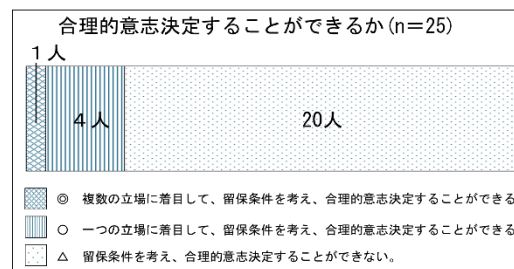
【資料5 社会的事象の意味についての記述分析】

このような実態から、調べた工夫や努力を社会的事象に関わる人々にとっての良さ、私たちの暮らしにとっての良さや段階を踏み、関連付けながら考えることで、社会的事象の意味を捉えることができるような工夫が必要だと考える。

(2) 合理的意志決定することができるか（調査2）

単元「あたたかい土地の暮らし」において、「観光客がさんご礁を見ることができる場所を減らすべきか、減らすべきでないか」という問いについての記述内容を分析した【資料6】。

「観光客がルールを守り、地元の人々は観光によって収入を安定して得られるのであれば、減らすべきでない」と、複数の立場に着目して、留保条件を考え、合理的意志決定することができた子どもが25人中1人いた。一つの立場に着目して、留保条件を考え、合理的意志決定することができた記述が見られたのは4人いた。一方で、留保条件を考え、合理的意志決定することができなかった子どもが20人いた。



【資料6 合理的意志決定についての記述分析】

このような実態から、「批判」「調整・吟味」を組み込んだ話合いで、それぞれの考えのメリットやデメリットを明らかにし、自分とは異なる考えと比較することで、留保条件を考え、合理的意志決定することができるような工夫が必要だと考える。

5 観察する子どもについて

実態調査の結果から本研究で観察する子どもを3人抽出した。調査結果は、以下に示すとおりである。

	調査1	調査2	子どもの実態
A児	○	△	調べた工夫や努力を基に、社会的事象の意味を一つ捉えることができる。一方で、友達と話し合っても、自分とは異なる考えを受け入れることができず、留保条件を考え、合理的意志決定することができない。
B児	○	△	調べた工夫や努力を基に、社会的事象の意味を一つ捉えることができる。一方で、話合いの際、異なる考えをもつ子どもに話を聞くことができずに、留保条件を考え、合理的意志決定することができない。
C児	△	△	調べた工夫や努力を基に、社会的事象の意味を捉えることができない。また、これからの社会がどのように在るべきかについて、自分の考えをもつことができない。

IV 第1次授業研究（6月）

1 単元 米づくりのさかんな地域

2 目標

生産方法や協力関係、輸送方法、研究などに着目して調べ、米づくりに関わる人々の工夫や努力によって、私たちが味の良い、安全な米をいつでも食べられることを理解することができるようにする。また、これからの米づくりの在り方について考え、適切に表現することができるようにする。

3 検証項目

- (1) 「良さ発見シート」で工夫や努力を米づくりに関わる人々にとっての良さ、私たちの暮らしにとっての良さとして段階を踏み、関連付けながら考えることは、社会的事象の意味を捉える上で有効か「良さ発見シート」の記述からつかむ。
- (2) 「批判」「調整・吟味」を組み込んだ話し合いで、それぞれの考えのメリットやデメリットを明らかにし、自分とは異なる考えと比較することは、留保条件を考え、合理的意志決定する上で有効か「意志決定シート」の記述からつかむ。

4 実践の概要（10時間完了）

段階	主な学習活動
課題把握	第1時 米の生産量や消費量、米の価格の高騰についての資料を基に、気付いたことや疑問を出し、ウェビングマップで整理する。それを基に、学習問題をつくる。 【学習問題】米づくりに関わる人々のどのような工夫や努力によって、私たちの暮らしはどのように良くなっているのだろう。
	第2時 気付いたことや疑問を基に、調べる視点を明らかにし、学習計画を立てる。
課題追究	第3～6時 生産方法・協力・輸送方法・研究の視点ごとに調べ学習に取り組む。
	第7時 工夫や努力を関連付け、米づくりに関わる人々にとっての良さを考える。
	第8時 私たちの暮らしにとっての良さをまとめる。 【検証場面1】
意志決定	第9時 良さと課題を確認し、「米の輸入を更にするべきか、するべきでないか」について仮の意志決定をし、大切にしたい良さと理由を考える。
	第10時 仮の意志決定を基に、メリットやデメリット、どのような条件であれば異なる意志決定をするかについて話し合い、自分とは異なる考えを踏まえて最終的な考えをまとめ、提案する。 【検証場面2】

5 第1次授業研究の様子と考察

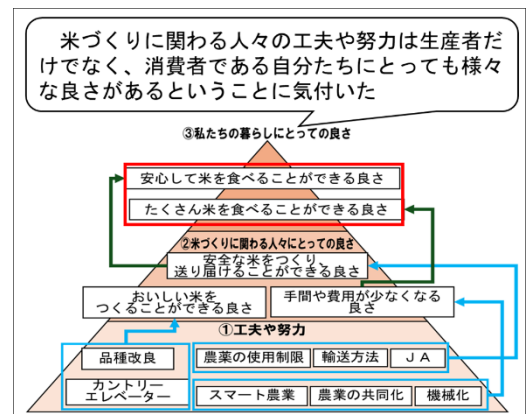
(1) 検証場面1までの流れ

第3～6時に、生産方法・協力・輸送方法・研究の視点ごとに調べた工夫や努力について「良さ発見シート」の下段に記述した。第7時では、複数の工夫や努力を関連付け、米づくりに関わる人々にとっての良さを考えた。農業の機械化やスマート農業を関連付け「手間や費用が少なくなる良さ」、JAの協力や農薬の使用制限、輸送方法を関連付け「安全な米をつくり、送り届けることができる良さ」などと「良さ発見シート」の中段に記述した。

(2) 検証場面1（第8時）

まず、米づくりに関わる人々にとっての良さを確認した。次に、それらを基に、私たちの暮らしにとっての良さについて考え、「良さ発見シート」の上段に記述した。

A児は、「安全な米をつくることできる」から「安心して米を食べることができる良さ」を見いだした。また、「手間や費用が少なく、たくさん米をつくることできる」から「たくさん米を食べることができる良さ」を見いだした。活動を通して、米づくりに関わる様々な人々の工夫や努力は、私たちにとっても様々な良さがあるということに気付くことができた【資料7】。



【資料7 A児の「良さ発見シート」】

C児は、前時までに、米づくりに関わる人々にとっての良さを捉えることはできていた。しかし、本時で、私たちの暮らしにとっての良さを考える際には、「『手間や費用が少なくなる』とどのような良いことがあるか分からない。米づくりに関わる人々にとっては良くても、自分たちには関係ないのではないかと」困惑している様子であった。最終的に私たちの暮らしにとっての良さを捉えることができず、学習問題のまとめも抽象的な内容となってしまうていた。

(3) 検証場面 1 の結果と考察

A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
工夫や努力を基に、どのような社会的事象の意味があるかについて二つ以上捉えることができる。	工夫や努力を基に、どのような社会的事象の意味があるかについて一つ捉えることができる。	工夫や努力を基に、どのような社会的事象の意味があるかについて捉えることができない。
20人		5人 (C児)
10人 (A児)	10人 (B児)	

A児やB児のように、工夫や努力を基に、社会的事象の意味を捉えることができた子どもは、25人中20人いた。工夫や努力を米づくりに関わる人々にとっての良さ、私たちの暮らしにとっての良さや段階を踏み、関連付けたことで、つながりが可視化され、社会的事象の意味が捉えやすくなったためだと考える。

一方で、C児のように、社会的事象の意味を捉えることができなかった子どもが25人中5人いた。これは、米づくりに関わる人々にとっての良さから、私たちの暮らしにとっての良さを考える際に、立場を変えて良さを考えるということが難しかったためだと考える。社会的事象に関わる人々にとっての良さと私たちの暮らしにとっての良さを関連付けて考えるための工夫が必要だと考える。

(4) 検証場面 2 (第10時)

まず、「米の輸入を更にするべきか、するべきでないか」に対し、同じ仮の意志決定をした子ども同士で、メリットやデメリットについて話し合った。次に、異なる仮の意志決定をした子ども同士で、それぞれのメリットやデメリットを共有したり、相手のメリットやデメリットについて考えたことを伝え合ったりした。そして、最終的な意志決定をまとめた。

B児は、仮の意志決定を「輸入するべき」とし、理由に「米をいつでも食べることができるから」と記述していた。同じ仮の意志決定をした子ども同士の話し合いでは、「日本人の口には合わないかもしれない」というデメリットがあることに気付くことができた。異なる意志決定をした子ども同士の話し合いでは、「安全ではないのであれば、輸入するべきでない」と述べていた【資料8】。

<p>同じ仮の意志決定をした子ども同士の話し合い</p> <p>B児 輸入するべき 主張 輸入をするメリットは、米をたくさん食べることができる、価格も安くなることだと思います。</p> <p>もしかすると、海外の米は日本人の口には合わないかもしれない。 他児 輸入するべき 批判</p> <p>B児 輸入するべき 調整・吟味 確かに、海外の米が日本人には合わないかもしれないことが、デメリットです。</p>		<p>米の輸入を更にするべき・するべきでない</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">大切にしたい良さ</th> </tr> <tr> <td>おいしさ</td> <td>安全</td> <td>いつでも食べることができる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table> <p>理由 今は、米の値段が高く、量も少ない。米をいつでも食べることができるから、輸入するべき。</p> <table border="1"> <tr> <th>メリット</th> <th>デメリット</th> </tr> <tr> <td>米を安く買うことができる。安定して米を食べることができる。</td> <td>日本人の口には合わないかもしれない。安全性が心配。</td> </tr> </table> <p>もしも、海外の米が安全ではないのであれば、輸入するべきではない。</p>	大切にしたい良さ			おいしさ	安全	いつでも食べることができる			○	メリット	デメリット	米を安く買うことができる。安定して米を食べることができる。	日本人の口には合わないかもしれない。安全性が心配。
大切にしたい良さ															
おいしさ	安全	いつでも食べることができる													
		○													
メリット	デメリット														
米を安く買うことができる。安定して米を食べることができる。	日本人の口には合わないかもしれない。安全性が心配。														
<p>異なる仮の意志決定をした子ども同士の話し合い</p> <p>B児 輸入するべき 主張 米を輸入することで、安く買うことができ、毎日米を食べることができるようになります。しかし、海外の米が日本人の口に合うかが心配です。</p> <p>安全性についてはどうでしょうか？海外の米と日本の米では基準が違うと思います。 他児 輸入するべきでない 批判</p> <p>B児 輸入するべき 調整・吟味 確かに、安全性についても心配です。安全ではないのであれば、輸入するべきではないと思います。</p>															

「批判」「調整・吟味」を組み込んだ話し合いにより、消費者にとっての新たなデメリットに気づき、留保条件を考えることができた

【資料8 B児の話し合いの様子と「意志決定シート」の記述内容】

(5) 検証場面2の結果と考察

A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
複数の立場に着目して、留保条件を考え、合理的意志決定することができる。	一つの立場に着目して、留保条件を考え、合理的意志決定することができる。	留保条件を考え、合理的意志決定することができない。
22人		3人
2人	20人 (A児、B児、C児)	

留保条件を考え、合理的意志決定することができた子どもは25人中22人いた。これは、「批判」「調整・吟味」を組み込んだ話合いで、それぞれの考えのメリットやデメリットを明らかにすることで、自分とは異なる考えと比較しやすくなったからだと考える。

しかし、複数の立場に着目して、留保条件を考え、合理的意志決定することができた子どもが25人中2人にとどまった。これは、どのような立場があるか、それらの立場にどのような影響があるかについて意識することができていなかったためだと考える。そこで、話合いでメリットやデメリットについて考える際に、複数の立場を意識するための工夫が必要だと考える。

V 長期研修で学んだこと

1 富山大学准教授 岡田 了祐 氏

岡田氏は、意志決定の際の子どもの飛躍とつまづきを研究されている。どのような立場にとってのメリットとデメリットなのかを設定せずに、話し合ってしまうと、留保条件を考える際に、複数の立場に着目することは難しいのではないかと御指導いただいた。第2次授業研究では、話合いの際に、生産者と消費者の立場ごとに、それぞれの考えのメリットとデメリットを明らかにしていく。

2 関西福祉大学名誉教授 小野間 正巳 氏

小野間氏は、他者との関わり方について研究されている。話合いの前後に、一人で問題についての考えを構築する場面の設定が重要であると御指導いただいた。第2次授業研究では、話合いの前後に個人で考える場を十分に確保することで、話合いで、友達の考えと比較したり、自分の考えやその根拠を振り返り、修正したりすることができるようにしていきたい。

3 武庫川女子大学講師 長川 智彦 氏

長川氏は、社会問題学習のカリキュラムを構築するための内容編制原理を研究されている。社会的事象に関わる人々にとっての良さと私たちの暮らしにとっての良さを段階的に関連付けるとよいと御指導いただいた。第2次授業研究では消費者がどのようなものを求めているかを基に、社会的事象に関わる人々にとっての良さと私たちの暮らしにとっての良さを関連付けて考えることができるようにしていく。

4 長崎大学准教授 土肥 大次郎 氏

土肥氏は、多様な立場や意見を比較・吟味しながら合理的に判断する方法について研究されている。個人の感情や主観的な思いだけに依存した話合いでは、論点が感覚的なものになってしまうと御指導いただいた。第2次授業研究では、意志決定する際にどのような資料を活用したのかを明らかにさせることで、事実に基づき、判断することができるようにしていきたい。

5 宮崎大学教授 吉村 功太郎 氏

吉村氏は、事実認識と価値判断学習による社会の合意形成を図る能力について研究されている。事実の理解だけではなく、目的を考える過程を経ることで、社会的事象に関わる人々にとってどのような良さがあるかに気付くことができると御指導いただいた。第2次授業研究では、工夫や努力を調べる際には、事実と目的を分けて考えるようにすることで、社会的事象に関わる人々にとっての良さを見いだすことができるようにしていきたい。

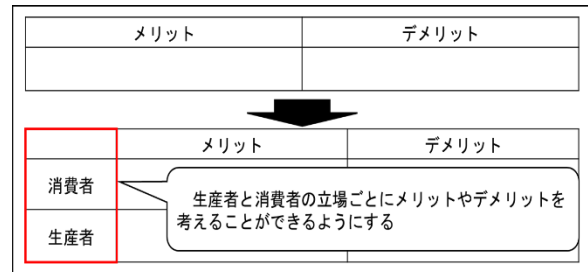
VI 第2次授業研究に向けての改善点

1 検証項目1について

保護者や子どもにアンケートを実施し、消費者がどのようなものを求めているかについて考える。アンケート結果を示しながら、「良さ発見シート」で社会的事象に関わる人々にとっての良さや私たちの暮らしにとっての良さを関連付ける。このようにすることで、社会的事象に関わる人々から私たちへと立場を変えて考えやすくし、社会的事象の意味を捉えることができるようにする。

2 検証項目2について

「意志決定シート」で、立場ごとのメリットとデメリットを記述する欄を追加する。それを活用し、「批判」「調整・吟味」を組み込んだ話し合いを行う。このようにすることで、どのような立場に、どのような影響があるかを捉えやすくし、複数の立場に着目して留保条件を考えることができるようにする【資料9】。



【資料9 「意志決定シート」の改善点】

VII 第2次授業研究（10月）

1 単元 自動車をつくる工業

2 目標

生産方法や関連工場との協力、輸送方法、新しい自動車の開発に着目して調べ、自動車づくりに関わる人々の工夫や努力によって、私たちが、消費者の需要に合わせ、安全で環境に配慮した便利な自動車を手に入れることができるということを理解することができるようにする。また、これからの自動車づくりの在り方について考え、適切に表現することができるようにする。

3 検証項目

- 「良さ発見シート」で、消費者がどのようなものを求めているかを確認しながら、自動車づくりに関わる人々にとっての良さから私たちの暮らしにとっての良さを見いだすことは、社会的事象の意味を捉える上で有効か「良さ発見シート」の記述からつかむ。
- 「批判」「調整・吟味」を組み込んだ話し合いで、生産者と消費者の立場ごとにメリットやデメリットを明らかにし、自分とは異なる考えと比較することは、複数の立場に着目して、留保条件を考え、合理的意志決定する上で有効か「意志決定シート」の記述からつかむ。

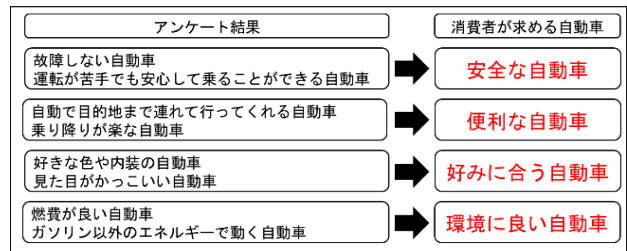
4 実践の概要（10時間完了）

段階	主な学習活動
課題把握	第1時 自動車の生産台数や普及率、環境に配慮した自動車についての資料を基に、気付いたことや疑問を出し、ウェビングマップで整理する。それを基に、学習問題をつくる。 【学習問題】 自動車づくりに関わる人々のどのような工夫や努力によって、私たちの暮らしはどのように良くなっているのだろうか。
	第2時 気付いたことや疑問を基に、調べる視点を明らかにし、学習計画を立てる。また、「どのような自動車に乗りたいか？」というアンケートを基に、消費者がどのような自動車を求めているかについて考える。
課題追究	第3～6時 生産方法・関連工場・輸送方法・開発の視点ごとに調べ学習に取り組む。
	第7時 工夫や努力を基に、自動車づくりに関わる人々にとっての良さを考える。
	第8時 保護者や子どもへのアンケートを基に、私たちの暮らしにとっての良さをまとめる。 【検証場面1】
意志決定	第9時 良さと課題を確認し、「電気自動車の開発を優先するべきか、するべきでないか」について仮の意志決定をし、大切にしたい良さや理由を考える。
	第10時 仮の意志決定を基に、立場ごとのメリットやデメリット、どのような条件であれば異なる意志決定をするかについて話し合い、自分とは異なる考えを踏まえて最終的な考えをまとめ、提案する。 【検証場面2】

5 第2次授業研究の結果と考察

(1) 検証場面1までの流れ

第2時に、「どのような自動車に乗りたいか？」という事前に保護者や子どもに実施したアンケート結果を示し、消費者がどのような自動車を求めているかについて考えた【資料10】。第3～6時に、生産方法・関連工場・輸送方法・開発の視点ごとに調べた工夫や努力について「良さ発見シート」の下段に記述した。第7時では、複数の工夫や努力を関連付け、「すばやく、正確に、安全な自動車をつくらることができる良さ」「様々な機能がついた自動車をつくらることができる良さ」といった自動車づくりに関わる人々にとっての良さを考え、「良さ発見シート」の中段に記述した。



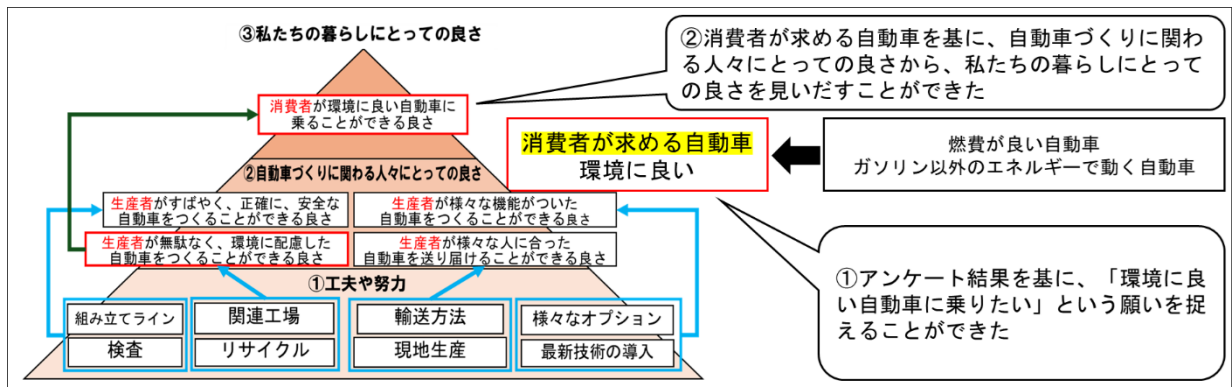
【資料10 アンケート結果を基に考えた消費者が求める自動車】
「すばやく、正確に、安全な自動車をつくらることができる良さ」「様々な機能がついた自動車をつくらることができる良さ」といった自動車づくりに関わる人々にとっての良さを考え、「良さ発見シート」の中段に記述した。

(2) 検証場面1（第8時）

アンケート結果から考えた消費者が求める自動車を示しながら、「良さ発見シート」で自動車づくりに関わる人々にとっての良さから私たちの暮らしにとっての良さを見いだす活動を行った。

B児は、アンケート結果から分かった「消費者は、安全で、便利な自動車に乗りたい」という願いを基に「良さ発見シート」では、「すばやく、正確に、安全な自動車をつくらることができる」から「安心・安全な自動車に乗ることができる良さ」を見いだした。また、「様々な機能がついた自動車をつくらることができる」から「便利な自動車に乗ることができる良さ」を見いだした。

C児は、アンケート結果から分かった「環境に良い自動車に乗りたい」という願いを基に「良さ発見シート」では、「無駄なく、環境に配慮した自動車をつくらることができる」から「環境に良い自動車に乗ることができる良さ」という消費者にとっての良さを一つ見いだすことができた【資料11】。



【資料11 C児の「良さ発見シート」】

(3) 検証場面1の結果と考察

A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
工夫や努力を基に、どのような社会的事象の意味があるかについて二つ以上捉えることができる。	工夫や努力を基に、どのような社会的事象の意味があるかについて一つ捉えることができる。	工夫や努力を基に、どのような社会的事象の意味があるかについて捉えることができない。
23人		2人
17人 (A児、B児)	6人 (C児)	

「良さ発見シート」の記述から、工夫や努力を基に、私たちにとっての良さを捉えることができた子どもは、25人中23人いた。これは、消費者がどのようなものを求めているかを確認しながら、生産者にとっての良さから消費者にとっての良さを見いだすことで、生産者から消費者へと立場を変えて考えやすくなったためだと考える。

(4) 検証場面 2 (第10時)

まず、電気自動車とハイブリッド車に関する資料を基に、「電気自動車の開発を優先するべきか、するべきでないか」に対し、仮の意志決定をし、同じ仮の意志決定をした子ども同士で、生産者と消費者の立場ごとにメリットとデメリットについて話し合った。次に、異なる仮の意志決定をした子ども同士で、考えを共有したり、どのような条件であれば意志決定を変えるかについて話し合ったりした。

A児は、仮の意志決定を「優先するべき」とした。同じ仮の意志決定をした子ども同士での話し合いでは、「補助金がある」「二酸化炭素の排出量が少なく、環境に良い」ということを消費者のメリットとして、「車両価格が高い」ということを消費者のデメリットとして挙げていた。また、「働く環境が変わってしまう」という生産者のデメリットにも気付くことができた。異なる意志決定をした子ども同士の話し合いでは、「もしも、ハイブリッド車の二酸化炭素の排出量を更に減らし(消費者)、雇用を守ることができないならば(生産者)、優先するべきでない」と述べていた【資料12】。

<p>同じ仮の意志決定をした子ども同士の話し合い</p> <p>A児 優先するべき 主張 電気自動車の開発を優先するべきだと思います。消費者にとっては、車両価格が高いですが、補助金が出るというメリットがあります。更に環境にも良いです。</p> <p>生産者は、パーツが少なくなるので、エンジンの関連工場の閉鎖してしまう可能性もあります。</p> <p>他児 優先するべき 批判 確かに、生産者にとっては、働く環境が変わってしまう可能性があるということがデメリットです。</p> <p>A児 優先するべき 調整・吟味</p>		<p>電気自動車の開発を <u>優先するべき</u>・するべきでない</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="4">大切にしたい良さ</th> </tr> <tr> <td>安全</td> <td>環境</td> <td>好み</td> <td>便利</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> </table> <p>理由 家で充電することができ、便利で、環境にも良いから、優先するべき。</p> <table border="1"> <tr> <th>立場</th> <th>メリット</th> <th>デメリット</th> </tr> <tr> <td>消費者</td> <td>補助金がある。二酸化炭素の排出量が少ない。</td> <td>車両価格が高い。</td> </tr> <tr> <td>生産者</td> <td>世界中で、普及してきているので、海外で販売できる。</td> <td>働く環境が変わってしまう。</td> </tr> </table> <p>もしも、ハイブリッド車の二酸化炭素の排出量を更に減らすことができ、雇用を守ることができないのであれば、優先するべきでない。</p>	大切にしたい良さ				安全	環境	好み	便利		○		○	立場	メリット	デメリット	消費者	補助金がある。二酸化炭素の排出量が少ない。	車両価格が高い。	生産者	世界中で、普及してきているので、海外で販売できる。	働く環境が変わってしまう。
大切にしたい良さ																							
安全	環境	好み	便利																				
	○		○																				
立場	メリット	デメリット																					
消費者	補助金がある。二酸化炭素の排出量が少ない。	車両価格が高い。																					
生産者	世界中で、普及してきているので、海外で販売できる。	働く環境が変わってしまう。																					
<p>異なる仮の意志決定をした子ども同士の話し合い</p> <p>A児 優先するべき 主張 車両価格が高いですが、補助金も出るので、電気自動車の開発を優先するべきだと思います。しかし、生産者の働く環境が変わってしまう可能性があることが心配です。</p> <p>ハイブリッド車が更に二酸化炭素の排出量が減ったらどうでしょうか？働く人の環境もこれまでとあまり変わらないと思います。</p> <p>他児 優先するべきでない 批判 確かに、ハイブリッド車の二酸化炭素の排出量を更に減らすことができたらよいと思います。また、電気自動車の開発を優先することで、雇用を守ることができなくなるのであれば、考えを変えます。</p> <p>A児 優先するべき 調整・吟味</p>																							

立場ごとのメリットやデメリットを明らかにし、自分とは異なる考えを比較したことで、消費者と生産者の立場に着目し、留保条件を考え、合理的意志決定することができた

【資料 12 A児の話し合いでの様子】

C児は、仮の意志決定を「優先するべきでない」とした。同じ仮の意志決定をした子ども同士と話し合う中で、環境に良いだけでなく、消費者の好みに合わせて自動車はつくられているという良さに気づき、「車種が多く、長く乗れば、二酸化炭素の排出量も電気自動車と総合的に変わらないので、やはり、ハイブリッド車の方が良いと思う」と自分の考えを振り返ることができた。異なる意志決定をした子ども同士での話し合いでは、「中国を中心に電気自動車が普及してきている」という意見から、「もしも、世界中で電気自動車が多く販売され、日本の自動車売れなくなったら(生産者)、また、様々なデザインの電気自動車が増えるのであれば(消費者)、優先するべき」と述べていた。

(5) 検証場面 2 の結果と考察

A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
複数の立場に着目して、留保条件を考え、合理的意志決定することができる。	一つの立場に着目して、留保条件を考え、合理的意志決定することができる。	留保条件を考え、合理的意志決定することができない。
23人		2人
14人 (A児、B児、C児)	9人	

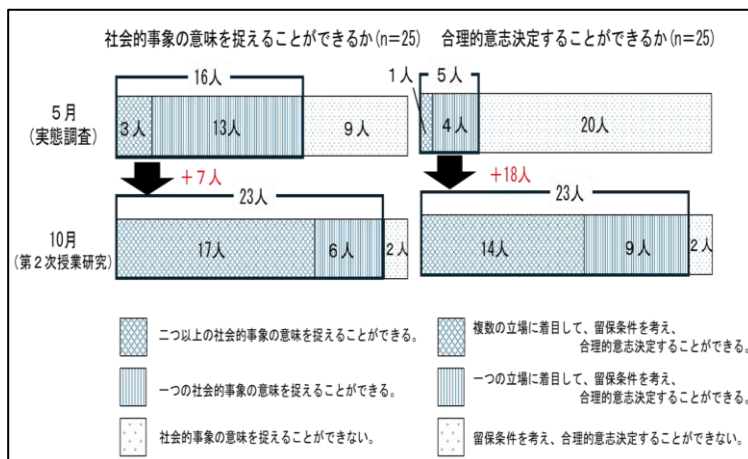
合理的意志決定することができた子どもは25人中23人いた。これは、「批判」「調整・吟味」を組み込んだ話し合いで、生産者と消費者の立場ごとにメリットやデメリットを明らかにした上で自分とは異なる考えと比較したことで、どのような立場に、どのような影響があるかを捉えやすくなったためだと考える。一方で、2人の子どもは合理的意志決定することができなかつた。これは、話し合いで出された考えを整理することができず、留保条件を考えることができなかつたためだと考える。

VIII 研究のまとめ

1 研究から明らかになったこと

(1) 合理的意志決定能力の育成

授業研究を通して、社会的事象の意味を捉えることができた子どもは、16人から23人と7人増えた。また、留保条件を考え、合理的意志決定することができた子どもは5人から23人と18人増えた。さらに、複数の立場に着目して、留保条件を考え、合理的意志決定することができた子どもは1人から14人へと13人増えた。【資料13】。このことから、「良さ発見シート」を活用して、社会的事象の意味を捉え、「批判」「調整・吟味」を組み込んだ話合いで、それぞれの考えのメリットやデメリットを明らかにし、自分とは異なる考えと比較することは、合理的意志決定能力を育成する上で有効であるということが明らかになった。



【資料13 検証項目の変容】

(2) 実践後の子どもの様子

第2次授業研究後の単元「情報産業とわたしたちの暮らし」では、「ニュース番組づくりに関わる人々のどのような工夫や努力によって、私たちの暮らしはどのように良くなっているのだろう」という学習問題を設定して学習を進めた。A児やB児は、情報の集め方や伝え方に関する工夫や努力から、「信頼のできる情報を得ることができる」「新しい情報をすぐに手に入れることができる」という私たちの暮らしにとっての良さを捉えることができた。また、「ニュース番組は、視聴率が取れない内容でも放送するべきか、するべきでないか」に対し、C児は「視聴者は興味がなくとも、大切な情報を知ることができ、ニュース番組づくりに関わる人々も、様々な情報を発信できるので、放送するべきだと思う。もしも、ニュース番組づくりに関わる人々が番組を続けることができず、視聴者も本当に知りたい情報が得られなくなるならば、放送するべきでないと思う」と複数の立場に着目し、留保条件を考え、合理的意志決定することができた。それぞれの立場ごとにメリットやデメリットを考えようとする子どもの姿に、研究の成果が表れていることを感じた。

2 今後の研究に向けて

本研究では、「良さ発見シート」を活用し、社会的事象の意味を捉えた。また、「意志決定シート」を活用し、「批判」「調整・吟味」を組み込んだ話合いで、それぞれの考えのメリットやデメリットを明らかにし、自分とは異なる考えと比較することで、留保条件を考え、合理的意志決定することができた。一方で、話合いで出された考えを整理することができず、留保条件を考えることができない子どもが見られた。これは、話合いで出された考えをどのような観点で整理するとよいのかが示されていなかったためであると考えられる。今後は、「どのデメリットがなくなるとよいか」「どのメリットが強化されればよいか」等のように、観点を与えることで、話合いで出された考えを整理できるようにし、留保条件を考え、合理的意志決定することができるようにしていく。

参考・引用文献 岩田一彦『社会科固有の授業理論・30の提言』明治図書(2001)

小野間正巳『意志決定能力を育成する協働提案型小学校社会科授業モデルの開発研究—意志決定カテゴリーによる授業分析をとおして—』(2018)